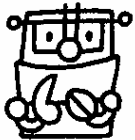


木をアルミニウムはくにつつんで熱すると、出る気体は何



木にふくまれていた成分が、分解されて出てきたもの。
アルコール、油、^{すいじょうき}水蒸気などさ。

アルミニウムはくに木をつつんで熱すると出てくる白い気体は、熱で木の成分が、分解されて出てきたものです。気体には、アルコールや水蒸気、油など100種類以上のいろいろな成分が混じっていて、火をつけると、よく燃えます。

木に火をつけると、熱で木から出てきた気体が燃える

ふつう、木を熱すると、木のいろいろな成分が分解されて、気体になって出てきます。酸素がまわりにある空気中では、この気体が酸素と^{きゅうげき}急激に結びついて、熱や光を出します。これが、燃えているとき出るほのおです。この熱で、さらに木の成分が分解されて、木は燃え続けます。そして、出てきた気体と酸素が結びついた、二酸化炭素や水蒸気などが空気中に出てきます。

アルミニウムはくでつつまれた木から分解されて出る気体は、まわりに空気（酸素）が少ないため、アルミニウムはくの上部のあな（マッチをはさんでつつみ、マッチをぬいてあなを残す）から、そのまま燃える気体として出てきます。アルミニウムはくの中には、炭が残ります。

強火で熱し続けると、高温のため、木は完全に燃えて白い灰^{はい}になり、660以上になると、アルミニウムはくも燃え出します。

